

飛騨農林事務所の普及活動状況(令和8年6月末現在)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■水稲・スマート農業技術をフル活用した稲作省力化研修会

飛騨地域では、スマート農業技術を活用した直播栽培の実証試験を行っている。従来行われている水稲の移植栽培は、苗の管理や運搬等多くの労力がかかるため、苗管理の労力を省略できる直播栽培の技術確立に向け、試験に取り組んでいる。

6月1日、「コシヒカリ」の直播作業の実演を含めた研修会が開催された。研修会では、自動水門やレーザーレベラーによる水田均平化等、スマート農業技術を活用した直播栽培について講演があったほか、農業普及課からは、稲刈り時期等の予測も可能な「アグリルック」について講演を行った。「アグリルック」は直播栽培をした場合の刈り取り時期も予測でき、直播栽培を作業体系にどのように組み込むのかを事前に計画することができる。出席者の関心は非常に高く、活発な意見交換が行われた。

農業普及課では、飛騨地域における直播栽培技術の確立に向け、継続して支援を行っていく。



【研修会の様子】

ぎふ農畜産物のブランド展開

■トマト・ミスト防除による省力的防除の実証

トマトの防除作業の省力化技術として、微生物農薬等を細霧ノズルやかん水チューブで散布するミスト防除技術（農業技術センター開発）の2年目の現地実証を高山市で実施している。

今年度は、昨年度問題となったチューブ内の残液によるボタ落ちや目詰まり防止のためにポンプの立上げ位置の見直し等を行った。5月5日には農業技術センター協力のもと実証機器の設置を行い、水による試運転を実施した。灌水チューブからのボタ落ちは大幅に改善され、2年目の資材でも問題なく使用できることが確認できた。

今後は、引き続きミスト防除の作業時間や灰色かび病の防除効果等を調査し、導入面積の拡大に向けて効果を検討する。



【ミスト散布の確認作業】

■果樹・高山市果実組合がリンゴ褐斑病勉強会を実施

近年、飛騨地域のリンゴ生産現場では、褐斑病が問題となっている。

こうした状況を受け、6月15日高山市果実組合では、褐斑病対策勉強会を開催した。勉強会では、農薬メーカー3社から他産地における発生状況、効果の高い防除タイミング等について講演があった。農業普及課からは、褐斑病の感染サイクルや飛騨地域での発生状況について説明した。

当日の出席者は組合員だけではなく、飛騨地域全域から多数の生産者が参加しており、褐斑病への関心の高さがうかがえた。

農業普及課では、データの蓄積を継続するとともに、褐斑病の適期防除を支援していく。



【勉強会の様子】

■飛騨メロン・高山飛騨メロン研究会現地研修会を開催

飛騨地域では、夏季の冷涼で日較差の大きい気象条件を活かした高品質なメロンの生産が行われている。飛騨メロン研究会は、地域の生産者13名が所属し、栽培技術の向上に努めている。近年の課題は夏の高温で果実の肥大や糖度の上昇が抑制されていることであり、高温対策が求められている。

6月18日に開催された飛騨メロン研究会現地研修会では、会員2名のは場で実際の生育状況を観察しながら情報交換を行った。農業普及課は、各生産者から生育概要や栽培管理、課題の聞き取りを行い、部会全体の作柄や高温の影響について分析し、情報共有を行った。その後、種苗会社の担当者による栽培管理に関する講義があり、品種特性や水管理、遮光管理といった高温対策技術について指導を受けた。

農業普及課は、今後も生育状況の把握を行い、飛騨メロンの栽培技術や品質の向上に向けて支援していく。



【ほ場視察の様子】